



第 8 号

発行
 旭区大宮西之町4-18
 府立旭高校同窓会
 発行人 西中紀博
 編集
 旭窓会報編集委員会
 印刷所
 宏栄印刷株式会社

8月23日(日)同窓会総会
 於母校

本年度の同窓会総会について数度にわたる理事会で検討してきましたが、昨年までの実績等を考えあわせて、八月二十三日(日)の午後三時より母校で開催することに決定しました。

暑い時期ですが夕方より始めますし、恩師の先生方にもできるだけ多数参加していただくようお願いもしていますので多数の会員の参加を期待します。

なお、アトラクションには寄席も計画しています。

以下、簡単に当日の日程をお知らせしておきます。

・午後三時～四時 総会

総会次第

- 一、会長挨拶
- 二、学校長挨拶
- 三、会務報告
- 四、昭和四十四年度会計報告
- 五、同会計監査報告
- 六、昭和四十五年役員選出
- 七、顧問推挙

・午後四時～四時三十分

アトラクション(寄席)

・午後四時三十分

懇親会 於旭窓会館

さそい合って
 多くの参加を



昭和四十四年度会計報告

同窓会にももの申す

① (12期 上田千鶴子)

こゝ数年、同窓会は非常に低迷している。総会出席者は、新卒業生か、卒業後数年を経た人達である。同窓会の運営に携わる理事・

同窓会員の諸氏には御壮健にてお過ごしのことと拝察申し上げます。平素は何かと同窓会のために御協力下さいまして誠にありがとうございます。

今年度は約四五〇名の卒業生諸氏が新しく同窓会に入会せられ、その総数約六千名を数に至りました。新しい会員の諸氏の御入会につきましては心から歓迎申し上げますと共に、皆様方の若い力が旭の同窓会に大いに刺激となり、益々本会が良き親睦の会となることと信じっております。

挨拶

同窓会長 西中紀博

さて昭和四十五年度の同窓会総会も来月に決り、当日は母校で、例年の通り、久し振りに皆様方の懐かしいおを拝見出来ますことを私も大願楽しみにしております。加え愛私達が旭に在校しております。御出席いただけたらと聞いておりますので尚一層よろこんでおります。

舎や木々の緑にも懐かしさが沸いてまいります。母校をみるたびに母校はいいなと思つたのです。そして普段は思い出の中に浮かぶ恩師の姿に現実には接する時には、一層なつかしさや感慨が沸いてまいります。私自身、こんな気持ちの味わいを、チャンスがあれば数多く味わうことが出来、いつまでも持ち続けたいものと念じている者でありますので、同窓会の皆様にもこの様な機会を少しでも多く持っていたく様にと微力ながらこの会のまとめ役の人として努力させていただきますが、なかなか思い通りになりませんが、とにかく本会の目的に添える様に今後も努力してまいりたいと思っております。

来年は母校旭高校も創立二十周年を迎えんとしております。何卒皆様方におかれましても、母校の隆盛と本会の発展のために大いに御援助御協力賜りますようお願い申し上げます。終りになり上げます。

またがこの紙面をお借りしまして、常々同窓会のために忙しい時間をさいて会運営のために御苦労をおかけしております。母校の先生並びに役員、理事の方々、またこの会報の発行に労を惜しまず御尽力いただきました旭窓会報編集委員の皆様から心からお礼申し上げますと共に、来る総会には会員諸氏の振つての御出席を期待し、また皆々様の御健康を心からお祈り申し上げます。

② (15期 木村好信)

旭高校を卒業して二年近くになった。今、思い出してみると、旭での三年間は実に愉快であった。

というよりは開けないのである。今後、卒業生も増え、組織が大きくなった時には、收拾がつかなくなる。旭高校創立二十周年を来年に控えて、同窓会にカンフル注射なり、手術なりが必要ではないだろうか。手遅れにならないうちに、その対策を講じるべきである。そこで、同窓会々員諸氏に、その対策を講じるために、お知恵を拝借したいものである。

私からの提案としては、

- 一、同窓会々費の増収を画る。
 - 1、寄附を募る。
 - 2、臨時会費を徴収する。
- (回収方法が問題である。)

一、人事一新
理事・幹事に名前を連らねているが、その職責を果していない人達諸事情があるでしょうが、を積極的にやる気のある人に。

一、幹事の活用
有名無実の幹事をフルに利用する。同期生への連絡、地方在中心者への連絡等。

以上、御一考願いたいものである。

いや、愉快なことしか覚えていないのである。十六才十八才は多感な年令であった。実際、僕自身この三年間に多くの友人、種々の教師と交わり、自己を形成していく上に少なからず影響を受けたと思つている。

この点において、僕は大学よりもむしろ旭の方が「母校」という印象が強いのではなからうか。話は若干変わるが、旭の卒業生も今年で六千人になったという。かなりの大世帯である。しかし、残念乍ら我校の同窓会は連帯性に乏しく、年に一度の同窓会総会も出席数二百名を上回ることはほとんどないというありさまである。

本当に残念に思われる。これでは旭高校同窓会は、全く有名無実に等しいのではないか。僕は、今後の旭の後輩諸君の活躍と学校の発展には同窓会の強力なバックアップこそ大切なのであらうと思つたのである。



※ 4面につづく

母 校 テニス部 全国大会出場へ

母校クラブの久々の快挙をお知らせします。

テニス部は、今年四月から六月にかけて行なわれた大阪府民体育祭兼全国高校総合体育大会大阪府予選で、ブロック予選から中央大会へと破竹の勢いで勝ち進み、遂に決勝では、昨年度の全国優勝校である明星高校を2-1で破り、府民体育祭で優勝しました。同時に大阪府の代表として、七月二十一日から二十四日まで、和歌山県で行なわれる近畿大会、さらに八

月一日から五日まで三重県伊勢市で行なわれる全国高校総合体育大会に出場することが決定しました。府立高校が、団体戦で全国大会に出場するのは久々の事です。旭高校が、団体戦で全国大会に出場するのは、今回が初めてです。

なお、個人戦の方も、大阪から10チーム出場しますが、それにも予選通過し、個人戦、団体戦の両方に出場することになっていきます。全国大会での活躍を期待したいものです。

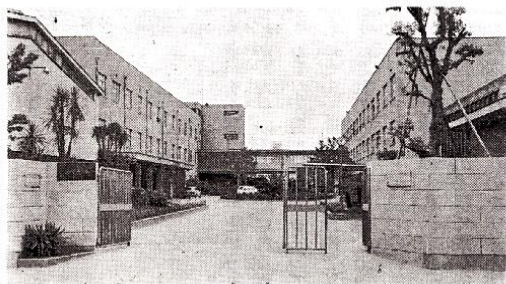
母 校 人 事

※転退職された先生

- 山本茂雄先生 (国語、三島高へ)
- 福本茂雄先生 (社会、八代学院大学へ)
- 稲木努先生 (数学、勝山高へ)
- 富永公一先生 (理科、守口高定時制へ)
- 前川恵三先生 (体育、大和川高へ)
- 島田美代先生 (体育、桃谷高へ)
- 杉本英雄先生 (英語、八尾高定時制へ)
- 西口勇先生 (事務長、大阪府へ)
- 難波正治先生 (事務、府教委へ)
- 福中巨司先生 (書道、退職)

※転入された先生

- 藤沢有彰先生 (国語、勝山高より)
- 碓氷先生 (社会、住吉高より)
- 細谷肇子先生 (体育、大和川高より)
- 山下紀代美先生 (書道)、塩



谷博先生 (英語、守口高より) 阿出川祐子先生 (英語) 中野登美男先生 (事務長、大阪府より)

母 校 進 路 状 況

進 学 状 況

今春の大学入試は、大学の方の学園紛争は、昨年に比べ落ちついてはいたが、高校の方は、昨年中種々の問題で落ちつかなかったせいもあってか、現役の合格率はかなりさがつたようである。浪人優位というのは決して必然的な現象ではないと思う。

毎日の高校生活を、ごまかしでなく着実に充実して送ってもらいたいものだ。

大学名	現	浪	計	大学名	現	浪	計
国立4年制				私立4年制			
京大		3	3	立命	5	24	29
阪大		2	2	大同	2	21	23
神大		3	3	関大	8	35	43
阪外	2	2	4	関学	2	9	11
岡大		1	1	近大	6	10	16
鳥取		1	1	経大	1	4	5
京大	1	2	3	大工	3	2	5
大教	3	2	5	歯大	4	5	9
奈大		2	2	大樟	2	2	4
その他	2	4	6	女大	3	3	6
計	8	22	30	大谷	2	2	4
公立4年制				南大	2	3	5
市大	1	7	8	学院	3	1	4
府大		5	5	大他	9	5	14
女大		2	2	計	28	26	54
神大		1	1				
その他	1	15	16				
計	2	15	17				

お 知 ら せ と お 願 い

※お知らせ

昭和四十三年に発行した。同窓会会員名簿の残部が若干あります。特別会員と一期生から十四期生までの会員を集録してあります。

御希望の方は代金三五〇円と送料五〇円計四〇〇円を添えて母校同窓会宛申し込んで下さい。折り返し発送いたします。

※お願い

同窓会行事の案内や会報が、確実に皆さんの手元に届くよう努力していますが、依然として宛名不明の方が多くおられます。

転居、結婚による改姓等は確実にお知らせ下さい。なお友人等でも御存知の方はお知らせ下さい。

就 職 状 況

- 銀行 (七)
- 紡績 (三)
- 電機 (六)
- 製鋼 (一)
- 食品 (三)
- 運輸 (二)
- 官公庁 (一)
- 保険 (四)
- 商事 (十一)
- 化学 (一)
- 製菓 (三)
- 諸工書 (三)
- 百貨店 (二)

計 五二名



文化財の保存について

十四期 福永信雄
十六期 土生田純之

私達は、旭の歴史部を、三年前と、今年に卒業したものです、どういふ因念か、同じ大学に入学し、高校の時やっていた考古学を共に学んでおります。

考古学という、同窓生の皆さんは、どういふ事をお考えになるでしょうか。小さなスコップで土器を掘りだしている姿でしょうかそれとも古墳を測量している姿でしょうか。

もちろん私達、考古学を学ぶ者は、時にはこんな仕事もします。しかし今、私達、考古学を学ぶ者にとって、これら以外の問題に頭を悩ましております。

この問題は、私達だけでなく、同窓生の方々、もっと大きく日本国民全体の問題であります。皆さん方は、新聞で「遺跡が、破壊された。」というような記事を読まれた事が、たぶんあると思えます。また現在「明日香地方の保存」といふ記事が、各紙をにぎわしています。

これらの事についてどうお考えでしょうか。文化財の保存という事です。

よく「自分の土地だからどうし

ようと自分の勝手だ。」ということばが、地主の人から話される事があります。確に地主がきまっていればその土地は法律の枠内で私有を許されています。しかし土地は地主の物でも、その土地の下に眠っている遺跡は、古代人（祖先）が私達に、私達の子孫に残してくれた大切な遺産なのです。土地は、一人地主のためにあるのではないのです。けれども保存は、地主の人達や、その土地によって利益を左右される人達に、被害を与えては、成りたないのです。

現在、明日香を初め各地の遺跡は、この問題で悩まされているわけなのです。私達は、遺跡の保存に対し次のように考えます。遺跡の保存にあたって、地域住民の負担にならぬよう利害関係を調節し保障する事又、遺跡を現状維持で保存するのではなく、一部を調査し、その結果を資料館に展示し、遺跡の持つ意義や重要性を国民に理解してもらう事が、結局、国民一人一人の為であり、子孫の為であるという事をみなさんに理解していただく為

に、政府（文化庁）や私達考古学を学ぶ者が、中心となり努力していく事が必要であるということだと思います。

以上のように遺跡の保存という問題は、非常にむづかしいものですが、国民のみならず、その重要性や意義を理解するならば、必ず守ることができると私達は信じております。

旭の同窓生の皆さんも何かお話をされる時このような事についても話し合われ、個人におかれましても遺跡、文化財の保存についての認識を持たれる事を期待します。以上

尚、ここにあげた文化財とは、埋蔵文化財のことです。

※2面のつづき

③（13期 神原規夫）

来年は旭高校創立二十周年、そして同窓会も旭高校と共に歩んで

来年創立20周年

年月のすぎるのは、経過してみると早いもので、新設校「旭高校も、来年は、創立20周年を迎えます。卒業生も六千名を越え、学校としても、「成人式」を迎えるわけです。

同窓会としても、この年を契機に、さらに発展を期していかねば

早や十六年たちました。十三期の理事として四年間同窓会の会務にたずさわって感じた事をこの紙上を借りて述べてみたいと思えます。

同窓会の発展は会員諸氏の協力と我々理事の努力との二人三脚によつてのみ可能であると思われまます。しかし現実の理事会における理事の出席率は極めて低く。又同窓会総会における会員諸氏の出席も、会員六千名からすれば極めて低く一割にも満たない状態であります。この状態が今後も続くならば旭高校同窓会はその存在価値を認められる事なく消滅するばかりです。

来年創立二十周年を迎えるに当り、今後の旭高校の発展と同窓会の繁栄を期待し、ここに会員諸氏の協力と理事の方々の奮起を強く要望します。

× × ×

と考えます。

来年度の会報は、この20周年を記念して特集号を発刊したいと思います。どのような内容のもので結構ですので、母校同窓会宛、原稿を送付下さいますようお願いいたします。

世界の旅を創る /

株式会社 国際ツーリストビューロー

TEL 312-9321

スキー用品 専門店

ツカオ スポーツ

塚尾順司 (2期生)

大阪市南区鯉谷仲の町36
TEL 271-7053